

トモイ 実は日本の市民も同様の考え方をもち、実践も進んでいます。例えば、私も参加している**市民による自治的な子育て拠点は、ごく自然な形で地域のコミュニティづくり、貧困対策、居場所など複合的なテーマに取り組み、成果を出しています。**ただ、それは人々が地域で物凄く努力して初めて出来ているとも言えます。こうした取り組みが広がり、継続していくには、幅広い人々の理解と協働が欠かせません。政治や行政がそれらの下支えとなって関与することで、より安定的な安心の社会をつくるのが可能になると考えます。

⑤互いへの尊重を基本にしたリベラルな共同体主義を

トモイ 地方自治は、国政の下ではなく、まさしく民主主義の実践の場ですよね。『公共（パブリック）』とは本来、『人々』が語源です。私たち＝公共なのです。その根底には一人一人が『善く生きる』『正義』『社会的』とは何か問われている。そうした前提があるから、欧米先進国では日本のように国会議員が偉そうにすることはあり得ません。日本の多くの国会議員と違って皆優秀でよく勉強しています。

拓夫 日本の政治が繰り返し腐敗するのも、裏金やハラスメントなどの問題が多発するのも、民主主義や人権への理解が遅れ、政治が未だに少数者による統治の道具だと勘違いされていることに原因があると思います。多くの先進国では、民主主義は社会を住みやすく、暮らしやすくアップデートするための機能だと考えられています。日本の政治や民主主義を横浜・港北からアップデートしたいですね。

トモイ 私も新しい政治とは、新しい民主主義のスタイルをのことだと思います。自民も立憲も維新も、未だに中身は「政治家による、政治家のための」古い政治です。そこにはもう未来はない。

拓夫 私たち自身が、私たちの暮らしの質を高めること、世の中を楽しくし、人々の苦しみを取り除き、様々な課題解決をする当たり前の政治。その中心に不可欠なのが互いへの尊重や信頼、倫理観といったものです。それが今、日本の政治に決定的に欠けている。政治家も、そこに参加する人も、互いへの尊重や信頼を基本にした、互いにとって優しい社会をつくる。そうすれば自ずと、私たちは幸せになる。そんなシンプルな政治を私は目指しています。

今は小さな一歩でも、日本を変える最初の一歩に

トモイ 立憲民主党は野田氏が代表になって**原発ゼロを事実上撤回し、安保法制も容認。**人事を見ても党の政策を決める政調会長を元日本維新の会の議員が務めるなど要職を右派が占めました。今や**第二の日本維新の会とも言える状況で、とても自民党への対立軸たりえていません。「選択肢がない」との声を多く聞きます。**特に神奈川の立憲は、右傾化や組織のマッチョ化が進みました。**横浜市会だけでも、この1年半で、私に続いて、大山正治さん、中区の荻原隆宏さん、栄区の長谷川悦子さん、の計4名が会派や党を離脱する異常事態です。**私たちが参加した頃の党とは異なるものになってしまいました。

拓夫 本当に残念です。でもだからこそ、この横浜・港北から『私たちの政治』を訴え、流れを変えたい。政治家の望む政治ではなく、私たち国民が本当に望み、必要とする政治を作りたいのです。今は小さな一歩でも、行動することがきっと日本を変える最初の一歩になると信じています。



元衆議院議員
政策担当秘書
現役パパ

大野拓夫 大野トモイ

無所属の会
神奈川第7区幹事

横浜市議員 無所属

元ICUチアリーダー
現役ママ議員

弁士

無所属の会 横浜市議員

元ICUチアリーダー
現役ママ議員

大野トモイ 大野拓夫

自民でも立憲でもない第3の選択肢

リベラルな共同体 私たちの政治を！

無所属の会

演説会 10月29日(火) 午前10時 大倉山駅頭に

大野トモイ(知意)プロフィール

1978年高知県四万十市生まれ、大倉山在住。元ICUチアリーダー(ジャパンカップ第1位、体脂肪率12.8%)。大学時代から民主党青年局の活動に参加。大学では、東西の政治思想を学び、国際平和の実現について研究する一方、選挙権年齢引き下げと主権者教育の充実をめざすNPO法人Rightsの活動に参画。2005年と2009年に民主党公認で高知3区で衆議院選挙に出馬(比例ブロック次点。惜敗率;05年72.5%、09年87.0%)、与党時代の民主党衆議院の公設第一秘書、都内外資系企業人事部管理職を経て、2019年4月、立憲民主党公認で横浜市議員に初当選。2021年43歳で長女を出産。2023年4月、無所属で横浜市議員に再選(2期目)。子ども・子育て・教育・福祉の施策推進に邁進中!はっきりモノを言う性格。趣味は読書・ジム通い・着物。中学では陸上部、高校では茶道部。

大野拓夫(たくお)プロフィール

1968年愛知県津島市生まれ、大倉山在住。新聞奨学生として大学生生活を始める。大学時代に国際環境NGO(A SEED JAPAN)を立ち上げる。1992年国連主催の地球サミット準備会合に日本のNGO代表団として参加。その後、林業経営や環境NPOの運営に携わる。2001年から参議院議員中村敦夫(木枯らし紋次郎)公設秘書、環境政党みどりの会議事務局長。2007年と2011年横浜市議選に港北区で挑戦も共に次点。2012年、民間シンクタンク事務局長として民主党政権の「脱原発ロードマップ」作成を担う。2017年菅直元総理秘書として立憲民主党結党に携わる。その後同党の衆議院議員や参議院議員政策担当秘書として国会質問作成等を担当。映画「太陽の蓋」アソシエイトプロデューサー。「もう原発は要らない」(ほんの木)他編著書多数。好きなもの:アウトドア、畑、ポップアート、ル・コルビュジェ。

立憲民主党を離れて1年半が経ちます。

党会派に所属していた1期目と、無所属ひとり会派となった2期目とでは、様々な違いがありますが、前回のレポートや本レポート中面でご報告したように、党利党略に左右されることなく市長や教育長と是々非々の議論を重ね、特に子ども・子育て施策で大きな前進があるなど、1期目以上に充実した議会活動を行っています。今回のレポートは、私たちのめざす政治についての対談形式としました。ぜひご覧ください。

大野トモイ

〒222-0037 港北区大倉山3-1-3-3E 横浜市議員 大野トモイ 事務所

TEL:045-900-4375 FAX:045-330-8158

e-mail:anatanokoe@tomoi.yokohama

大野トモイ
サポーター登録



自民でも立憲でもない、第3の選択肢 リベラルな共同体 「私たちの政治」をつくる！

無所属議員になって

拓夫 トモイさんは立憲民主党を離れ無所属議員になって1年半が経ちました。どう変わりましたか？

トモイ とても充実しています。国会派に居た時は、本会議登壇は4年の任期全体で計3回でした。無所属になってからは最初の1年半で10回です。市民の皆様からの『請願』の紹介議員も、1期目は国会派の了承が得られず、一度も務められませんでした。2期目は最初の1年半で10回、本会議でも積極的に討論して市民の皆様の声や直接議場に届けています。国会派の意向に左右されることがなく市長や教育長などは是非々の質疑を重ね、公約実現に邁進しています。

(具体的実績については下記QRコードから大野トモイ公式サイト「子ども子育て特集2024」をご覧ください。)

大野トモイ
公式サイト



大野トモイ
議会質問動画



ジャパンカップ
第1位

元ICUチアリーダー
現役ママ議員

無所属
横浜市議員

大野トモイ

深刻な日本政治の墮落

トモイ 拓夫さんは、民主党政権の頃からここ十数年、国政の現場にいましたが、国政の変化をどう捉えていますか？

拓夫 政治家も官僚も、急激に質が低下し人材がいなくなりました。日本は、権力の中核が空っぽです。多くの政治家が、自分の選挙や党内権力闘争しか頭にない政治屋、実力も信念もない見かけ政治家になり国民の暮らしを守る議論が出来なくなっている。自民党の裏金問題もそうですが、野党議員の劣化も深刻です。どちらも政治の墮落です。

トモイ 私も2005年と2009年に衆議院選挙に挑戦しましたが、当時の民主党には強い理想も実行力も今の立憲とは比べものにならない程ありました。鳩山総理をはじめ当時の政治家たちの多くが排除され、引退を余儀なくされたり閑職に追いやられている。残念でなりません。本当に人々を思って仕事をする政治をつくり直す必要があります。

本当の政治改革とは？

拓夫 国会議員の報酬(給料)は半分にしたら良い。企業献金も、個人後援会の継承もなくすべきです。少なくとも金銭目当ての政治屋は激減します。でも政党助成金の選挙利用を禁じたり、韓国のような政策調査費3割以上の義務化、選挙供託金を廃止など政治の民主化に本当に必要な本格的な政治改革の議論が、国会では全く行われていません。

トモイ 私は、今本当に必要なのは、私たち国民が安心して暮らせる道筋を示すことだと思います。日本社会が迷走している最大の理由は、政治がビジョンを失っていることです。与野党問わず、政治家の多くが、新自由主義か「100万円配ります」といった選挙目当てのポピュリズムになっている。しかし、今日の日本の苦境を作ったのは、小泉、安倍が進めた新自由主義政策です。それは一握りの成功者のためのもので、99%の人々は安心して暮らすことを求めているのにそれに答えるビジョンがない。どうしたら良いと思いますか？

①人々を豊かにする経済に 環境、ケア(育児・福祉・医療)、生涯教育

拓夫 わかりやすいのは経済政策の転換です。目先の競争ではなく、人々の暮らしを支える政策に重点を移すのです。例えば北海道や東北の風力発電など自然エネルギーは、首都圏の電力需要全てカバー出来る程の潜在能力があります。バイオガスや草木などバイオマスは熱エネルギーの2~3割を供給出来る可能性がある。自然エネルギーだけでも年間十兆円規模の産業や雇用を生み出せます。安全な食や農業も欧米では高成長を遂げていますが、農業や化学物質等の規制には国を挙げて取り組んでいます。

トモイ ケア(育児、福祉、医療)や生涯教育の分野でも、私たちの生活の質を高め、安定的な雇用を生み出すことが可能です。特に教育は、次世代育成という意味で社会の要です。教育の無償化は実現すべき政策だと思います。また生涯に渡って学び続けられる環境も豊かな人生にとって大切なものです。

②「助け合い」を社会の中心に

拓夫 次に取り組むべきは、社会経済の考え方を考えることです。新自由主義が猛威を振るった欧州で、その対抗として脚光を浴びたのが社会的連帯経済(助け合い経済)です。地球環境や福祉、貧困や地域経済といった社会性の高い事業を積極的に育てるのです。一般企業だけでなく、協同組合やNPOや個人事業など様々な主体が、自然エネルギー、有機農業、地域のお店、カフェ、地域食堂、貧困対策、地域通貨、小規模事業融資や生活融資といった、人々の暮らしや地域を直接支える無数の事業や社会的共



元衆議院議員
政策担当秘書
現役パパ

大野拓夫

通資本を充実させる動きです。それによって経済が単なる生産と消費やギブ&テイクの関係から、善の循環へと変わって来ています。資本主義を単純に否定するのではなく質を変えるのです。

トモイ 鳩山政権が掲げた「新しい公共」も社会的連帯に繋がるビジョンですね。当時はあまり理解されませんでした。

③平和憲法を生かした外交を

トモイ 米中対立や台湾有事など、日本は外交・防衛面でも難しい局面にあります。しかし現在の関心はあまりにも軍事面に偏りすぎています。日本は安安保法制ですでに米国軍を支援できるよう憲法解釈を変えており、戦争の危機が高まっていると思います。

拓夫 日本にとって日米関係が最も大切だとは思いますが、現状のような対米従属では、いざ米中対立となった時に歯止めが効きません。対等なパートナーシップを努力して獲得していく必要があります。他方でもっと外交力を増し、多角的な発想で戦争ができない状況を構築すべきです。特に文化、経済面で友好的な国際関係を築くと同時に、平和憲法の理念を生かし、世界の隣人として平和構築・災害支援・地球環境への貢献を積極的に行い(友愛外交)、世界から愛され必要とされる日本を目指す。それが日本の平和と繁栄に繋がると考えます。

④すべての人が安心できる コミュニティ主体の社会へ (参加・自治・協働)

トモイ 私たちが安心して暮らせるようにするためには、よりコミュニティ(共同体)を主体とした社会づくりに切り替え、一人一人に安心できる居場所があり、支え合える社会にすることも大切です。ハーバード大学のM・サンデル教授らが中心になって進めているコミュニティ主体の社会(共同体主義)は人々のコミュニティへの参加を通じて互いが成熟し、皆が幸福に暮らしていく社会を志向しています。

拓夫 杉並区長になった岸本聡子さんが提唱するミニパリズムも、選挙による間接民主主義だけでなく、地域に根付いた市民自治的な行動や合意形成を重視する考え方です。どちらも行き過ぎた新自由主義や間接民主主義の欠陥を乗り越え、より人間らしく暮らせる社会を実現し、環境問題や紛争など様々な課題を乗り越えるための取り組みです。